

[国際標準になった認定情報技術者 (CITP)]

応
般

3 社会に貢献する CITP コミュニティ活動 —社会に求められる高度 IT 人材像と CITP の役割—

平林元明 | CITP フォーラム代表

高度 IT 人材像

CITP に求められる人材像を踏まえて、CITP のコミュニティ活動について紹介する。CITP の制度設計当初からプロフェッショナル人材によるコミュニティが情報産業をリードし、国の発展に貢献するという考え方があった。これに沿ってコミュニティ活動を進めるためには社会の求める高度 IT 人材像について俯瞰してみる必要がある。社会の求める高度 IT 人材とはどのようなものか？

Society 5.0 によって超スマート社会を実現するという国家的取り組みがある。社会インフラのデジタル化が進み、AI やロボット、IoT といった技術を使いこなす人材がますます必要になっている。

日本では欧米諸外国と異なり、IT 人材は IT 企業に偏在する傾向にある。ユーザ企業が IT 企業にシステム開発を発注する。このとき、ユーザ企業が求めるのは経験と信頼である。つまり実行力があるかどうか採用のポイントになる。これからはユーザ企業と IT 企業が協働でサービスを創る時代が変わる。IT 人材も単に IT の専門家としてだけでなく、利用者に対するサービスの価値を意識していかないといけない時代になってきている。

AI 等の新時代に携わる人材をどのように確保するか？ IPA ((独) 情報処理推進機構) の人材白書¹⁾によると、1 番目は

社内人材の再教育、2 番目は外部人材の中途採用である。つまり AI で仕事なくなるのではなく、変化に対応し、専門分野を持つ人材が生き残っていくということを物語る。

このような人材に求められる行動特性について「5つの力と3つの価値」に整理してみた(図-1)。

CITP は IT に関する専門知識と実行力があるが、社会が求めるすべての行動特性を満たすわけではない。図-1 に示す顧客の価値創造や将来技術の予測力など個人ごとに差がある。CITP コミュニティによって足りない特性を磨くことができる。

CITP とは「実行力のある高度 IT 人材」を認証された人である。この実行力を活かし、AI などの新しい技術を活用して、社会が必要とする価値を創



図-1 高度 IT 人材に求められる行動特性

造することで、その力を発揮することができる。

CITP コミュニティ活動

実行力のある高度 IT 人材が社会に貢献するためのコミュニティ活動とは何か？ 情報処理学会の CITP フォーラムは、CITP に認定された技術者同士の交流を通じた自律的な質の向上を図る場であり、社会提言、外部の審議会・委員会等への参画、情報分野における教育・人材育成活動などを含めさまざまなプロフェッショナル貢献活動を推進するなどにより社会貢献と技術者自身のレベルアップに資することを目的とする。

情報発信やコミュニケーションのためのホームページ設置、メーリングリスト、掲示板、FIT や全国大会への参加、ワークショップ開催、アニュアルレポートの発行など活動は多彩である。

活動内容について紹介する。コミュニティは幹事会、定例会、専門部会 (SIG) からなる (図-2)。

幹事会は、意思決定を行う組織であり、委員会などからなる。定例会は CITP 全員を対象とした集まりで、定例議題などのほかに講演会や専門部会の報告などを行っている。専門部会は有志による特別活動であり、以下に主な活動内容を紹介する。

- **シビックテック専門部会**：IT を活用し、被災地をはじめとする地域社会の課題解決に取り組む部会であり、2017 年度は石巻専修大学で学生を対

象にシンポジウムを開催した。

- 『知』の発信専門部会：CITP が持つノウハウや活動成果を『知』としてまとめ、論文などで公開・発信することを目的として発足した。企業間コミュニティの交流、CITP による研究発表などアニュアルレポートで公開している。
- **プログラミング教育支援専門部会**：学生を対象に CITP による貢献を検討する目的で発足した。2020 年から義務化される小学校のプログラミング教育における CITP の活用について文部科学省にパブリックコメントを発信した。
- **アラサー技術者交流専門部会**：若手 CITP 同士の交流をする専門部会で、最新技術に関する講演、ビジネスアイデア検討会、体験型のワークショップなどを行う場として発足した。

CITP の役割

CITP コミュニティは、IT 人材が新しい技術にチャレンジする機会を作り、企業間交流による価値の創造、プロフェッショナル貢献に寄与している。IT 人材は、往々にして日々のルーチンワークに追われがちである。業務を通じた会社への貢献だけでなく、自身の価値を高め、社会へ貢献していくことも必要である。CITP は企業価値を向上させ、社会価値を創造する役割を担っている。

今後は、社会との連携をさらに強めること、自身の価値を高めるためのレベルアップの仕組み作りが求められるのではないだろうか。

参考文献

- 1) (独) 情報処理推進機構：IT 人材白書 2017, p.51 (2017 年 4 月 25 日)
<https://www.ipa.go.jp/jinzai/jigyou/about.html>
 (2018 年 7 月 4 日受付)

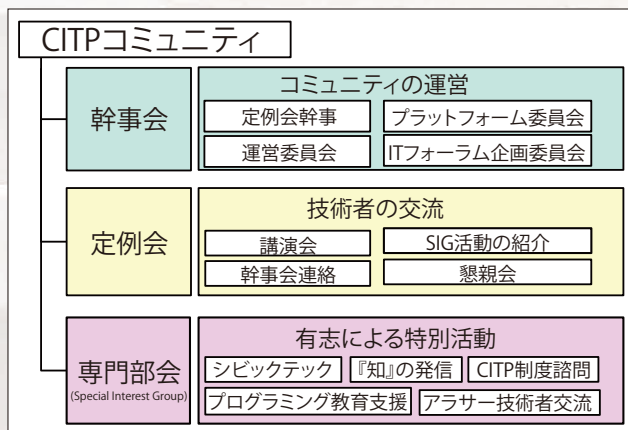


図-2 CITP コミュニティの構成

平林元明 (正会員) motoaki.hirabayashi@gmail.com

日立製作所で基本ソフトウェアの設計の後、公共システム開発を支援。内閣府情報化参与 CIO 補佐官として政府情報システムの最適化を推進、政府関連の委員長、静岡大学情報学部客員教授を経て、本会 CITP フォーラム代表。